

# 烏帽子会会報

2006年秋号 Vol. 41



建設進む看護学科棟

- 国試100%計画 3
- 看護学科開設の経緯と構想 4
- 在外研究援助金募集要項 7
- 研究奨励賞募集要項 15
- 啓明大学(韓国)との交換実習 24

福岡大学医学部同窓会

# 目 次

・会長挨拶			
国試 100% 計画	.....	高 木 忠 博	3
・看護学科開設			
福岡大学医学部看護学科開設の経緯と構想	.....	寺 崎 明 美	4
・評議員会			
平成 17 年度評議員会議事録	.....		5
・総会報告			
第 25 回医学部同窓会烏帽子会総会報告	.....	副 島 修	7
第 13 期理事・監事名簿／支部長名簿	.....		10
・研究奨励賞			
平成 18 年度研究奨励賞選考報告	.....	林 英 之	11
パーキンソン病における末梢免疫機能の検討	.....	馬 場 康 彦	11
非小細胞肺癌における肺切除前後胸腔内洗浄細胞診の意義	.....	江 夏 総太郎	12
CRP による VCAM-1 遺伝子発現誘導メカニズムの解明	.....	川 浪 大 治	13
平成 17 年度研究奨励賞研究報告	.....	岩 田 敦	14
・教授就任挨拶			
教授就任のご挨拶	.....	向 野 利 寛	16
教授就任のご挨拶	.....	白 澤 専 二	17
ご挨拶	.....	中 川 尚 志	18
・学生対策行事			
国試激励会	.....	占 部 嘉 男	19
新入生歓迎会	.....	笠 健児朗	19
M4 激励会	.....	小 川 厚	20
M4 激励会に寄せて	.....	二 田 哲 博	20
・教室・医局紹介			
放射線医学教室・医局紹介	.....	清 水 健太郎	21
総合診療部 医局紹介	.....	鍋 島 茂 樹	22
同窓生交歓（第 6 回生）	.....	平 野 基	23
・会員寄稿			
啓明大學との交換臨床実習	.....	坂 田 則 行	24
・支部だより			
佐世保支部だより	.....	富 田 寿 三	27
第 4 回福岡大学医学部同窓会朝倉支部総会	.....	田 邊 庸 一	27
筑後支部だより	.....	宿 里 芳 孝	28
・特集 クラブ生まれて 30 年			
『北アルプスの青い空』ワンダーフォーゲル愛好会	.....	坂 上 明 彦	29
英語研究会	.....	案 浦 美 雪	30
・平成 17 年度収入支出決算	.....		31
・平成 18 年度事業計画	.....		32
・平成 18 年度収入支出予算	.....		33
・教育職員人事	.....		33
・医局長・医長名簿	.....		34
・編集後記	.....		35

## 会長挨拶

## 国試 100% 計画

烏帽子会 会長 高木 忠 博 (1 回生・脳神経外科クリニック高木院長)



皆さんお元気ですか。2006 年の烏帽子会事業計画に「国試 100% 計画」を掲げました。医師国家試験、CBT100% 合格の意です。多分「寝惚けた事を!」と言う人もいるでしょう。しかし、

母校の 18 年国試成績は、皆様も愕然とされたように全国最下位 (DOBE) でした。福大創設 30 年来の最大の屈辱です。この結果による卒業生が受けた心 (誇り) の傷は大変大きかったと思います。私はこの傷を治療する薬には「国試 100%」の実績を示すしかないと考えに至りました。

その 100% 計画のキッカケを与えてくれたのは、全国私立医科大学同窓会連絡会の席で意気投合した K と言う友人です。彼は毎年 100% の国家試験合格実績を出している、自治医科大学の国試担当の教官です。彼との雑談の中で、国家試験の結果に一喜一憂している我々がその実、学生に対して先輩として何もしてやっていない事に気付かされたのです。本当に目から鱗! の感でした。自治医大は大学の性質上 100% 合格が各自治体からの要望ですが、それでも普通最初から国試 100% が可能とは考えられません。福大では今迄の新卒国試最高記録は 98% (100 名 / 102 名中) です、しかし、100% 世界での 2% の差は物凄い差であり、強烈な努力を必要とする世界である事も分かりました。そしてこの 1 - 2% 差の世界にこそ教育の本質が潜んでいるにも思います。またこの国試 100% 原理の作り出す社会連鎖が途轍もなく大きい事も発見でした。効果の第一は、大学関係者には教育力に対する自信と責任感が生まれ、学内の結束が緊密になり、風通しが良くなったという事です。第二は、病院受診者数が大幅に増加すると言う経済効果の凄さです。自治医大病院の外来患者数は、毎年の国試 100% 報道で年々増加の一途を辿り、遥か東京からの

患者さんもかなりの数に上るとか。病院は黒字が続き、研究や新改築など諸々の事が余裕を持って着々と実行されているとの事です。

真摯な本質的な教育努力が、これ程の連鎖反応を起こし、大きな富を生産しながら大学を発展させて行く事も驚きでした。そして、「何故 100% になったのか?」この疑問は、国家試験 100% へ向けて行動を最初に発案した人間達が、ヤッパリ卒業生達 (K 君含む) だったと言う事実です。「先ず卒業生が口火を切って行動しなければ、100% 話は絶対にスタートしませんよ!」と K 君に懇々と説得されました。

国試話をすると「国家試験は個人の問題であり自力で勉強するものである。大学は国試受験予備校ではないのだから大学が国試に殊更に拘るのは可笑しい。大学はそんなものではない!」との意見が出ます。確かにこれは正しい分別でしょう。しかし国中にはこの分別どおりでは済まない大学も数多くある筈です。その場合その分別を玉条のように掲げて、独り傍観する事がまた正しい分別と言えるのでしょうか。たまにそれは己の責任を回避する空しい口実としか聞こえない場合があります。

自治医大の K 君を見ていると単に職務をこなしている、と言うより「大学教育」の醍醐味を知った本物の教育プロと言う感じです。対象となる学生に対する教育者としての「愛情、使命感」が、体から吹き出している人間と会話している感じで圧倒されます。私にとってはかなりのカルチャーショックでした。我々卒業した人間達には国試は年中行事ですが、現役学生にとっては一生に一度の大試練です。自分が同じ道を歩いた国試体験者であるにもかかわらず、無意識のうちに自己中心的評論家然として学生への対応をしていた自分の過去の姿を自覚して、同窓先輩として非常に恥ずかしい思いがします。後輩に大変申し訳ない事をしていたと思えました。我々福大医学部 OB 集団は、国試を 100% 合格にする「責任」と共に、大きな大きな「義務」を背負ってい

る集団（大学）である事を真剣に自覚しました。

大学の発展、質と言うのは、所属する大学人の「人への関心」と言う血液の量で決まって行くのではないのでしょうか。此処に「無関心ウイルス」の感染が起こると組織内の組織循環は急に悪くなってしまいDIC状態になり組織不全の状態になります。このウイルス感染の特長は全く自覚症状が無いと言う点であります。自分で採血して自分で検査しなければ病原菌を発見出来ない難しさがある所です。「国試最下位」の結果が示す事は福大の組織が

思っている以上にこのウイルス感染率が高い様に思われますが自分も含めて同志の皆さん如何でしょうか。このウイルス感染に抵抗力を付ける為にも皆で手始めに新卒の国試合格率100%と言う「結果ワクチン」を行動して作成し免疫力を高めたいと思います。決して観念話にだけはならぬ様にしなければならないと思っています。国試100%ワクチン製造は独自の福大方式で学生、大学、同窓会の三本の矢が一つになって何とか完成せねばならない、と思います。同志の御声援、御協力を御頼み申し上げます。

## 看護学科開設

# 福岡大学医学部看護学科開設の経緯と構想

福岡大学医学部看護学科準備室 教授 寺崎 明美



## 1. 医学部看護学科開設までの経緯

福岡大学における看護学教育は、昭和50年に福岡大学附属看護学校として設立開始され、翌51年福岡大学附属看護専門学校と改称されています。創設期以

来の先輩諸姉や関係者等による諸先生方の並々ならぬご尽力により、平成18年3月までに1,143名の卒業生を社会に送り出し、医療・看護、地域社会へ多大な貢献をして、今日に至っていることは周知のことと思います。与えられましたこの度のテーマ「医学部看護学科開設の経緯と構想」につきましては、私は大学赴任後日も浅く、看護専門学校副校長の中嶋恵美子先生のお力を借りて、その任を果たしたいと思います。

看護専門学校の大学化への構想は、今から15年ほど前に遡るようです。21世紀を目前にして深刻さを増す少子高齢化、医学・医療の進歩、疾病構造の変化、住民の健康意識の高まりなどを背景に、看護系大学化の社会的要請が強まった時期と重なります。大学設置規準等の改正により、看護系大学が毎年約10大学程度増加していく文部科学省計画の最中の動きであったようです。即ち、平成4

年1月に大学当局へ最初の要望書が提出されています。以来、例年のごとく大学設置の必要性が叫ばれて今日に至っており、その道のりは必ずしも平坦ではなかった様子が伺えます。

平成8年「医学部コ・メディカル学科増設基本構想検討委員会」での検討、平成12年「将来構想検討委員会」で具体的検討の開始、平成14年「学長による医学部看護学科設置の諮問」がなされ、平成15年1月「企画運営会議により18年度開設予定」で準備開始が決定。しかし、校舎建設予定地等の問題により1年間の延長など、幾多の生みの苦しみの経緯を経まして19年度「医学部看護学科」として設置予定となり、現在その準備中であり、1年間の延長となった建物は、最先端の都会的センス溢れる施設設備で、素晴らしく教育環境の整った校舎として、その全貌を現わすのも間近なようです。

## 2. 看護学科の設置構想

看護は、生命誕生による母胎の安全を守ることから、救命救急のクリティカルな看護、健康の保持増進、疾病予防、リハビリテーションを包括した看護まで、施設内から地域ケアへの貢献等の幅広い役割を担います。特に、高齢化に伴い生活習慣病をはじめとする慢性・難治性疾患の増加は、在宅医療や社会での生活支援など障害を持つ人々の自立に

向けたケアの拡大・充実が必須になっています。大学教育では、このようなカリキュラム内容を看護師・保健師の統合教育で行います。医学部看護学科の教育理念（目的）は、『生命の尊厳に基づいた心豊かな総合的な人間教育を基盤として、創造的で国際的・学際的視野に立った論理的・倫理的な看護実践能力を育成し、看護学の実践並びに地域・国際社会に貢献する』と致しました。

教育理念に沿った教育目標には①生命や人間の権利を尊重・擁護し、倫理的判断と行動ができる能力を養う。②健康問題を総合的視野で思考できる能力と、論理的判断力・実践能力を養う。③保健医療福祉などの関連領域の人々と連携できる学際的調整能力を養う。④国際的な視野と柔軟な思考を持ち、広く地域・国際社会で活躍できる能力を養う。⑤主体的な研究態度を身につけ、自らの専門領域を発展させる能力を養う。を掲げました。この様な基礎的能力を養うことにより、看護専

門職としての幅広い能力を持った人材育成に繋がると考えています。

なお、教育目標を考慮してのカリキュラムの展開においては、課題探求能力を培うための環境作りや教育技法が、教員各自に問われてくると思われます。特に一回生は、看護学科の歴史を最初に創っていく人材でもあります。学生と教員が一体となって後輩の道しるべとなるような、教育・研究活動の足跡を残すことが期待されていると考えます。

また、医学部に看護学科が設置されましたことでは、可能な限り医学科との共修学習を模索し、クライアントを中心にしたダイナミックな関係性に力点を置き、共に関わり合う行為を通して協働・連携のあり方としての inter-professional 教育・実践が、基礎教育から展開可能であれば素晴らしいのではないかと考えています。福岡大学医学部同窓会の諸先生方のご指導、ご支援のほどを何卒よろしくお願い申し上げます。

## 平成 17 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 18 年度 4 月 22 日 16 時
- ◆場所 福岡国際ホール
- ◆出席 評議員：実出席 36、委任出席 40、  
欠席 16  
支部長（再掲）：出席 11、欠席 8

### ◇経過報告 〈高木会長〉

皆さんこんにちは。17 年度の経過報告をいたします。今年、一番大きなでき事は 3 回生の廣瀬君が小児科の正教授に就任したことです。今回の廣瀬君の教授選考は非常に素晴らしく、私は誇りに思いました。同窓生の中から 6 人の教授が生まれて教授会のメンバーとして活躍するという状況になったことは、これから先の発展に繋がって行くと思います。

もう一つの報告は皆さんご承知の国試についてです。全国最低の結果という最悪の状況に陥っています。我々同窓会が主体となり、国家試験直前に自治医科大学の河野先生に来ていただいて学生に講義をしてもらいましたが、残念ながら土壇場の講義だけでは効果は不十分でした。しかし同窓会が活動

した事については、新学部長の岩崎先生から感謝の言葉をいただきました。

報告の三番目は皆さんも関心のある子女の入試の事です。福大医学部の入試は年々難しくなっており、補欠合格の人数も少なくなってきました。卒業生の子女が受験する時に何らかの配慮をして戴けるよう大学の方に根気よく働きかけていきたいと思っております。

### ◇議題 1. 平成 17 年度収入支出見込

池田事務局長説明  
【附】会費納入状況  
〈松本専務理事〉

例年正会員の年会費を各支部長さんが集めて下さいましてありがとうございます。過去 5 年間の正会員の納入状況なのですが、支部徴収では各支部長の方々が大変ご努力して下さいまして納入率 100% を続けてある支部も多数あります。また 8 割を超える高い納入状況のところも増えて参りました。

今年、学部長、病院長人事が代わりまして新病院長に瓦林先生が就任されました。大変斬新で進歩的な発想をお持ちで、同窓会

にも学部長、病院長共に非常に良く対話して下さる先生です。大学病院を含め検診など、いろいろな病院施設が福大出身の方には割引料金で利用できるような有信会カードを作ってはどうかというご提案も出ました。有信会カードなるものが出来ると、そこから正会員の年会費を引き落とすことも可能となり、徴収率も上がるのではないかと期待されます。

学会寄付の件ですが、新しい項目として予算を計上し、学会に対する援助をしてはどうかという提案が出ました。全国規模の学会が福岡大学主催で行われるような場合に同窓会として寄付をしたらどうかということです。メジャーな学会については30万円。それに準ずるような全国レベルの学会は20万円程度を考えています。

#### ◇議題2. 平成18年度事業計画(案)について

〈田中常任理事〉

事業の計画案は昨年と比べて大きく変わった点はありません。

会員名簿の発行とパニックマニュアルの発行は、今年は発行年ではありませんので事業計画には挙がっていません。総会の開催で50万の増額になっております。今年から新1年生を総会に参加させようということで、1人5千円と計算し、合計50万円分が昨年よりも追加の費用として計上されています。国試対策費は今回の結果を受けまして昨年よりも75万円ほど余計に計上し、講師の謝礼等の費用に充てることにいたしました。

〈林副会長〉

研究奨励賞は今年も5月1日で締め切りになります。最近、学内の研究からの応募だけでなく、関東から2件の応募がきました。奨励賞の額に比例して、業績も国際的にも認められるような素晴らしいものが増えてきていますので、今後さらに立派な業績を上げる人達の力になりたいと思っております。

在外研究奨励金はきちんとした形で留学をする方、留学先からの招請とこちらから行くという担当の主任教授の推薦があれば、海外留学をされる方に少しでも金銭的な補助をしてあげてもいいんじゃないかということで始められた制度です。

〈竹下専務理事〉

同窓会で学生係をさせていただいて、医学部の方でも学生部委員として昨年の12月

からやっております。教務の委員にもなっております。私立大学は29校あります。福大の受験者総数は134人、合格者が99名、合格率が73.9%。新卒は111名、これは旧6年生を7人卒業延期いたしまして111名で85人の合格者、合格率76.6%。既卒者が23名、合格者14名、合格率は60.9%という状況です。特に新卒の76.6%というのは、他大学を見ても解りますが70%台がないという状況で、すぐ上が82.3%という事ですからとても低い状況であることはお解りだと思います。今回屈辱的な合格率で皆さんを不愉快にさせましたし、大学の印象も非常に悪くしました。4年生に関しましてはCBTというコンピューターで操作する試験があるんですね、厚生労働省が作っているオフィシャルな試験ですがその試験を受けています。但しこの試験も昨年度は最低に近いデータが出ています。平均より11点位低い状態です。我々同窓生にも何か出来る事はないかということで、4月26日に七隈支部で話し合いを持ち、出来ることを模索して行こうと思っています。

平成18年度事業計画(案)については拍手をもって承認される。

#### ◇議題3. 平成18年度収入支出予算(案)

〈池田事務局長説明〉

\*平成18年度収入支出予算(案)は拍手をもって承認される。

#### ◇議題4. 決算評議員会省略の件

決算書類は総会前に各評議員、支部長に送付し、例年どおり総会前の決算評議員会は省略する。

\*決算評議員会省略の件は拍手を持って承認される。

#### ◇議題5. 第13期会長選出

本日の評議員会では自薦、他薦の表明が無く、評議員会として現同窓会会長を次期同窓会会長として推薦する事となった。拍手を持って承認される。

〈高木会長〉

ありがとうございます。もう少し走らせて下さい。やり残した事がまだあります。特に今起こっている国試の事です。もう一度立ち上がらないとこの国試の成績は3,000人の仲間の心を傷つけてると思います。会長としまし

てなんとかもつと上のレベルに、5年前98%であと100%までもう一息という時がありました。朔君らが中に入り取り組んで成果を上げた状態を取り戻す為に、卒業生としてやっていきたいと思っています。もうしばらく走りますので皆さんよろしく支えて下さい。お願いします。

#### ◇議題6. 第25回総会案内

総会担当委員長9回生副島先生学会の為欠席、理事の二田先生が体調不良で欠席の為、池田事務局長説明。

〈池田〉

9回生と19回生が担当でございますが、昨年の24回総会終了直後から毎月実行委員会を開かれておられて非常に順調に進んでおります。今年はカラーでポスターを作られまして今度発行します会報の裏表紙にそのカラーのポスターを印刷してほしいという強いご希望がございましてその線で進めております。以上です。

〈重田〉

順調に進んでいるようです。ちなみに特別

講演の演者は同級生の吉永先生だそうです。本も出されて有名な方のようにいい話が聞けるようですからご出席の方よろしく願いいたします。

#### ◇その他. 病院整備計画

(日本設計によるスライドショー)

〈朔副会長〉

臓器別のセンター構想との話がありますが、一番変わるのは外科だろうと思います。外科を変えることで医学部、病院が大きく変わることになると思います。病院の竣工は平成21年9月です。本設計がこれから半年で終わります。

〈重田〉

朔先生が副病院長になられまして、病院の執行部に入られておりますのでそういう情報も入る訳なんです、ハード面はなんとかありますよね。問題はソフト面で、新しい診療体制、医局制度も含めてあるだろうと思いますし、同窓会の位置づけも出てくるのではないかと思います。

## 福岡大学医学部同窓会 在外研究援助金 募集要項

**対 象：**正会員、準会員及び学生会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、3ヶ月以上外国に留学する者

**申請方法：**所定の申請書により留学出発3ヶ月前までに提出の事

**提出先：**〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局  
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032  
FAX 092-865-9484

**援助金：**1件20万円を限度とし、年間10件以内

**発 表：**その都度、同窓会会報に掲載

**その他：**①受給者は帰国後その成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事  
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

### 受給者名簿 (平成17年9月以降)

川 浪 大 治 (21 回生) 東京慈恵会医科大学内科学助手 Case Western Reserve 大学  
八 尋 英 二 (18 回生) 福岡大学筑紫病院内科第一助手 Alabama 大学

総会報告

## 第25回医学部同窓会烏帽子会総会報告

実行委員長 副島 修 (9回生・整形外科)

第25回医学部同窓会烏帽子会総会は、我々9回生・19回生が当番幹事となり、7月6日ホテル日航福岡にて開催させていただきました。当日は台風が接近する悪天候にもかかわらず、岩崎医学部長はじめ6名の特別会員の先生方にもご臨席いただき、総数130名以上の方が参加され盛大に執り行うことが出来ました。

総会のテーマを「今だから…愛」と決めさせていただき、同級生である王谷英仁先生にポスター作成を、吉永陽一郎先生に特別講演をお願いしました。吉永先生は久留米で小児科を御開業の傍ら育児支援活動を積極的に行っておられ、「そばにいる人はだれ? : ランナーの伴走者としての医療者」と題した先生の優しい人柄が滲み出た元気いっぱいのお話で、会場内もやさしさに満ち溢れ、同級生の一人として、また主催した者の一人として鼻高々な思いでした。

懇親会では、岩崎医学部長はじめご出席いただいた喜久田・柏村・木村・木船・都先生(順不同、敬称略)ら各特別会員の先生方にも一言ずつ近況報告をしていただき、当時を懐かしむ一幕もありました。アトラクションのひとつとして、9回生の渕野由紀先生が師事されている劉福君氏に胡弓演奏をお願いしましたが、会場内のざわめきが静まるほどの見事な演奏で聴衆を魅了したものと思われます。また今年度はM1の学生さんにも総会のご案内を致しました。残念ながら当日は他の行事などと重なり、3名とやや寂しい参加者数でしたが、壇上で高木会長からの熱いエール



副島 修 委員長

を直接うけ、来年度以降は学生参加者数も増加していくものと期待しております。今年度小児科主任教授となられた3回生の廣瀬先生にも一言ご挨拶を頂き、最後に次期幹事である10回生へ同窓会旗の引き渡し式、都前教授の元気な万歳三唱、さらに全員が一つの輪になっての福大校歌斉唱(ほぼ熱唱)と興奮は最高潮に達しました。2次会では伝説の9回生バンド“Misty”が復活し、日航ホテル始まって以来のチャペルでのポップス生演奏が実現され、10年ぶりに顔を合わせた我々9回生同士もしばし時を忘れて、3次会・4次会へと繰り出していきました。

思い返せば、前回の総会直後に実行委員会を立ち上げ、ほぼ1年間毎月一回委員会を開催して準備を進めて行きました。当初は、ただ事務的に会を開催すればよいだろうとの思いもありましたが、高木会長をはじめ本部の先生方の母校ならびに後輩に対する熱い思いに接するうちに、「我々にも何か出来ることがあるのでは?」と感じ始めたのは私だけではないと思います。これからも福大医学部の絆を大切にしていきたいと再認識しております。

最後になりましたが、大変お世話になった二田・田丸・柴田・大里・原・上野・渕野・野元・長谷川(以上9回生)、佐光・若松(以上19回生)の各実行委員、ならびに事務局池田さんをはじめ総会を支えてくれたすべてのスタッフの方々に改めて感謝申し上げます。有難うございました。



講演する吉永陽一郎先生



## 第13期理事・監事名簿

役職名	姓 名	回	分担業務(◆はチーフ)	勤 務 先
会 長	高 木 忠 博	1	全体統括	脳神経外科クリニック高木
副 会 長	朔 啓二郎	1	◆国試	福岡大学医学部 内科学第二
副 会 長	林 英 之	1	◆学術	福岡大学医学部 眼科学
副 会 長	重 田 正 義	2	◆総務	山崎リゾートクリニック
専務理事	権 藤 公 和	1	◆支部	権藤内科
専務理事	竹 下 盛 重	3	◆学生	福岡大学医学部 病理学
専務理事	廣 瀬 伸 一	3	学生	福岡大学医学部 小児科学
専務理事	松 本 直 樹	3	◆財務	松本病院
専務理事	大慈弥 裕 之	3	◆広報	福岡大学病院 形成外科
専務理事	浦 田 秀 則	3	学術・筑紫病院	福岡大学筑紫病院 内科第一
専務理事	松 永 彰	3	◆支部	福岡大学医学部 内科学第二
常任理事	占 部 嘉 男	5	学生	占部医院
常任理事	田 中 伸之介	5	財務	福岡大学病院 外科第一
常任理事	中 村 秀 治	5	学生	中村クリニック
常任理事	田 野 茂 樹	6	支部	たの眼科医院
常任理事	小 川 厚	6	学生	福岡大学病院 小児科
常任理事	二 田 哲 博	9	学生	二田哲博クリニック
常任理事	衣 笠 哲 史	10	学生・◇広報	福岡大学医学部 生化学
常任理事	笠 健 児 朗	12	学生	笠外科・胃腸科医院
理 事	二 見 喜 太 郎	1	◆筑紫病院	福岡大学筑紫病院 外科
理 事	上 村 精 一 郎	6	◆支部	天神クリニック
理 事	蔵 田 善 規	7	◆支部	蔵田眼科クリニック
理 事	岩 隈 昭 夫	8	総務	福岡リハビリテーション病院 循環器科
理 事	副 島 修	9	学生	福岡大学病院 整形外科
理 事	坂 田 俊 文	10	◆26回総会	福岡大学病院 耳鼻咽喉科
理 事	武 末 佳 子	11	広報	福岡大学筑紫病院 眼科
理 事	立 川 裕	13	広報	田中病院
監 事	江 下 明 彦	2		医) 江下内科クリニック
監 事	柴 田 陽 三	4		福岡大学医学部 整形外科

## 支部長名簿

支部長名	姓 名	回	勤務先
七隈支部長	松 永 彰	3	福岡大学医学部 内科学第二
筑紫病院支部長	石 井 龍	5	福岡大学筑紫病院 泌尿器科
福岡支部長	権 藤 公 和	1	権藤内科
北九州支部長	坂 本 博 士	2	医) 坂本眼科医院
嘉飯山支部長	二 宮 健	6	二宮医院
筑後支部長	甲 斐 保	2	医) 翠甲会甲斐病院
筑紫支部長	竹 野 文 洋	5	医) たけの内科クリニック
福岡赤十字病院支部長	土 持 廣 仁	2	福岡赤十字病院 脳神経外科
朝倉支部長	古 林 修 一	6	こばやし皮膚科
佐賀支部長	福 岡 英 信	2	医) 福岡病院
長崎支部長	星 子 浄 水	7	医) 星子医院
佐世保支部長	富 田 寿 三	7	とみた産婦人科クリニック
熊本支部長	魚 返 英 寛	5	魚返外科胃腸科医院
大分県支部長	鬼 木 寛	1	咸宜会日田中央病院
宮崎県支部長	野 田 寛	4	野田医院
鹿児島支部長	山 下 互	2	医) 拓和会山下わたる内科
沖縄県支部長	野 原 薫	3	のはら小児科医院
広島県支部長	横 手 祐 司	3	老人保健施設コスモス園
関西支部長	中 川 俊 正	1	大阪医科大学 病態検査学

## 研究奨励賞

## 平成 18 年度研究奨励賞選考報告

選考委員長 林 英 之 (1 回生・眼科学教授)

平成 18 年度烏帽子会研究奨励賞は例年と変わらぬ厳正な審査の結果、3 名に授与されることになった。本年は全て論文が対象となり、研究計画は惜しくも全て選外となった。

その 3 名のうち、医学部第 5 内科馬場康彦君 (20 回卒) の論文「Alterations of T-lymphocyte populations in Parkinson disease」. 「パーキンソン病における T-リンパ球ポピュレーションの変化」が受賞対象となったが、それ以外に多くの英文一流誌に多数の論文を執筆しておられ、満場一致の採択となった。

また東京慈恵医科大学糖尿病代謝内分泌内科所属の川浪大治君 (21 回卒) は学外の施設からの初めての受賞であり、同窓生が全国多くの施設で活躍をしつつあることをうかがわせて喜ばしい。

各支部長にはそのような学外の同窓生をさらに推薦していただきたい。

また第二外科江夏総太郎君 (20 回卒) は大学院 3 年 (生化学) で今後のさらなる飛躍を期待したい。



向かって右から  
前列／川浪、馬場、  
濱中 (江夏代理)  
後列／高木会長、  
朔副会長、  
林選考委員長

## 受賞論文抄録と受章者のことば

## パーキンソン病における末梢免疫機能の検討

福岡大学医学部内科学第五 助手 馬 場 康 彦 (20 回生)

パーキンソン病 (PD) は病理学的に黒質ドパミン神経細胞の減少と Lewy 小体の発現によって特徴付けられる。環境因子、遺伝子異常、神経栄養因子の欠乏、の神経細胞変性に関与すると考えられているが、その病因は依然と

して不明である。近年、PD の病態形成に免疫因子を介した神経炎症性プロセスが重要な役割を果たしているという認識が高まりつつある。実際に、PD の黒質ではクラス II 主要組織適合複合体 (HLA-DR) に陽性反応を示す

microglia が発現している。また、黒質線条体系のドパミン神経では IL-1 $\beta$ 、IL-2、IL-6、TGF- $\alpha$  など種々の炎症性サイトカインが増加している。これらの結果は免疫学的機序が PD の病態に関与していることを示唆する。一方、PD の末梢血を用いた免疫学的研究では、CD4<sup>+</sup>CD45RA<sup>+</sup> (naive) T 細胞の減少や CD4<sup>+</sup>CD45RO<sup>+</sup> (memory) T 細胞、TCR  $\gamma\delta$ <sup>+</sup> 細胞、IL-2 receptor  $\alpha$ <sup>+</sup> T 細胞の増加が証明されており、これらはリンパ球アポトーシスや遷延性炎症、感染後の免疫機能不全などを反映するものと考えられている。今回、我々が行った PD 末梢血の T リンパ球サブセット解析では、CD4<sup>+</sup>/CD8<sup>+</sup> 比の低下と IFN- $\gamma$  産生性 T リンパ球の上昇が認められ、PD の末梢免疫系は Th1/Tc1 タイプの免疫反応に偏奇していることが示唆された。これらの末梢免疫動態の変化は PD の中枢病変に認められる免疫動態と表現型がほぼ一致し、中枢神経系と末梢系

の免疫変化が相関することを示唆している。また、CD4<sup>+</sup>CD8<sup>+</sup> T cell サブセットの測定では CD4bright<sup>+</sup>CD8dull<sup>+</sup> T リンパ球が有意に上昇しており、末梢と中枢における一連の免疫応答にウイルス感染が関与している可能性が示唆された。PD の etiology としてウイルス感染説、特にインフルエンザウイルスとの関連性が度々議論されるものの、病理学的、血清学的検討からは病変形成に直接関与する特異的なウイルスの存在は証明されていない。しかしながら、中脳黒質はインフルエンザウイルスの主要な感染標的的部位であることが知られており、インフルエンザ感染によって誘導される MxA 蛋白が PD の Lewy 小体に発現することが証明されている。今後、PD の末梢免疫機能をウイルス感染の観点から更に詳しく分析し、PD とウイルス感染に共通する各種蛋白 (MxA、MAPKKK など) の末梢での発現状況を検討する必要がある。

#### 馬場康彦氏のことば

この度は、福岡大学医学部同窓会の研究奨励賞を授与していただき誠に身に余る光栄です。また、本研究の遂行にあたり御指導、御鞭撻を賜りました感染・微生物学教室の黒岩中助教授、内科学第5教室の山田達夫教授に深く感謝いたします。

パーキンソン病は未だ原因不明な神経変性疾患であり、その病態発現には免疫因子を介した神経炎症性プロセスが重要な役割を担っていると考

えられています。今回の研究ではパーキンソン病の末梢免疫機能をプロファイリングすることで病態解明への足がかりを掴むことを目的としており、今後も更に免疫学的側面からパーキンソン病の研究に取り組みたいと考えています。また、2006年7月から福岡大学病院で脳神経外科、放射線科と協力しパーキンソン病に対する定位脳手術療法(深部脳刺激術)を導入しており、臨床・治療における発展にも尽力したいと考えています。

## 非小細胞肺癌における肺切除前後胸腔内洗浄細胞診の意義

福岡大学医学部外科学第二 江夏 総太郎 (20 回生)

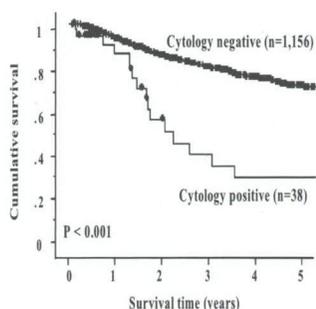
背景: 1200 例もの大規模コホートで、TNM 因子を含む多変量解析に基づいて、外科的に切除された非小細胞肺癌 (NSCLC) における肺切除前胸腔内洗浄細胞診 (pre-PLC) と肺切除後洗浄細胞診 (post-PLC) の意義を検討した。

方法: 1992 年 8 月から 2001 年 3 月の期間、悪性胸水や胸膜播種を認めず、肺切除が施行された 1214 例の NSCLC 患者を対象とした。細胞診は negative(class1,2), suggestive(class3),

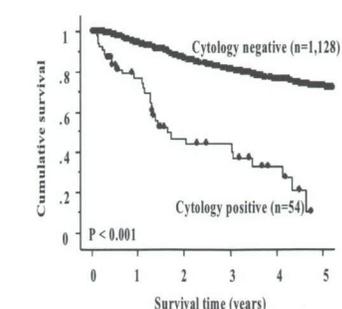
positive(class4,5) の 3 群に分類した。

結果: 1194 例に pre-PLC が施行され 38 人が positive であった。5 年生存率は positive 群が 27%、negative 群が 71% であった。1198 例に post-PLC が施行され 54 例が positive であった。5 年生存率は、positive 群が 10%、negative 群が 73% で pre-、post- とも positive 群が有意に不良であり、同時期に切除された T4-NSCLC と同等の成績であった。多変量解析の

結果、post-PLC は独立した予後因子であった。



	Negative	1156	903	692	528	369	238
	Positive	38	21	10	7	5	5
	Patients at risk						



	Negative	1128	888	686	527	417	334
	Positive	54	33	16	13	6	0
	Patients at risk						

Fig. 1 Survival curves of patients according to pre-PLC results.

Fig. 2 Survival curves of patients according to post-PLC results.

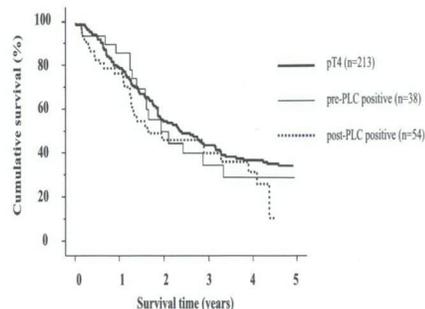


Fig. 3 Survival curves of patients with pathologic T4 and positive PLC results.

結語：pre-PLC と post-PLC は重要な予後因子であり、悪性胸水や胸膜播種のない NSCLC 症例では施行すべきである。ことに post-PLC は非常に強力な予後因子であり、今後、NSCLC の病理病期に組み込まれる必要がある。

(Ann Thorac Surg, 81(1):298-304, 2006.)

\* 本内容は、2nd-Latin American Conference on Lung Cancer (April 26-29, 2006) にて The Best Poster of Thoracic Surgery AWARD に採択されました。

### 江夏総太郎氏のことば

福岡大学烏帽子会同窓会の高木忠博会長をはじめ来賓各位ご出席の上で、研究奨励賞をいただきました事は、まことに身にあまる光栄でございます。厚く御礼申し上げます。

日ごろ私どもは、肺癌治療の改善を目指して微力を尽くしてまいりましたが、その努力をお認めいただき、はからずもこのように晴れがましい栄誉を得ましたことは、諸先輩方のご指導、励まし賜物

と心から感謝しております。また、この場をおかりいたしまして、御指導いただきました吉田純司先生、岩崎昭憲助教授、白日高歩教授、黒木政秀教授に深く御礼申し上げます。この上は、肺癌治療戦略の発展のため、決意を新たに職務に尽くす所存でございます。皆様、今後とも一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。本日は、まことにありがとうございました。簡単ではございますが、感謝の言葉に代える次第でございます。

## CRP による VCAM-1 遺伝子発現誘導メカニズムの解明

東京慈恵会医科大学内科学 川 浪 大 治 (21 回生)

近年、C-reactive Protein (CRP) が心血管疾患の独立したリスクファクターであることが明らかになっているがその分子メカニズムは明らかになっていない。我々は CRP が血管内皮細胞に対して直接作用を有し、動脈硬化関連遺伝子の発現を調節しているのではないかと仮説を立て検討を行った。CRP で血管内皮細胞を刺激して Northern blot をおこなったところ CRP 刺激 2 時間後から VCAM-1

mRNA 発現が誘導され、8 時間後にピークに達した。タンパク合成阻害剤である Cycloheximide は CRP による VCAM-1 発現に影響を与えず、CRP は新規タンパク合成を介さずに VCAM-1 発現を誘導すると考えられた。各種 protein kinase 阻害剤を用いた検討では p38 MAPK 阻害剤、PKC 阻害剤、Tyrosine Kinase 阻害剤が CRP による VCAM-1 発現を抑制した。多くの炎症性サイトカ

インは NF-kappaB の活性化を介して下流遺伝子の発現調節をおこなうことから、CRP も NF-kappaB を介して VCAM-1 発現誘導をおこなっていると考えて検討を進めた。NF-kappaB の特異的阻害剤である parthenolide は CRP による VCAM-1 発現を抑制した。さらに血管内皮細胞に human VCAM-1 promoter を transient transfection して CRP 刺激をおこなったところ promoter 活性は約 5 倍上昇したが、VCAM-1 promoter の NF-kappa B site に mutation を入れるとこの活性は完全に抑制された。さらに我々は CRP 刺激した血管内皮細胞の核抽出液を用いて、VCAM-1 promoter の NF-kappaB site を probe とするゲルシフトアッセイ

をおこなった。その結果、CRP は NF-kappaB の NF-kappaB site への binding を促進した。NF-kappaB のサブユニットである p65、p50 に対する抗体を用いて super shift assay をおこなったところ、p65 抗体でのみ super shift を認めた。すなわち、CRP は血管内皮細胞において p65 homodimer から成る NF-kappaB を形成することによって VCAM-1 発現を誘導すると考えられた。以上の結果から、血中の CRP 濃度を低下させることに加えて CRP による NF-kappaB 活性化を抑制することが心血管疾患に対する新規治療ターゲットになり得ると考えられた。

#### 川浪大治氏のことば

この度は受賞の機会をいただきまして誠にありがとうございました。選考委員の先生方に厚くお礼申し上げます。私にとって思い入れのあるこの研究で賞をいただくことが出来たのは望外の喜びです。福岡大学を離れて 8 年が経過しましたが今なおあたたかいご支援をして下さる烏帽子会に感謝の気持ちで一杯です。今後も臨床上の疑問点に

feedback 出来るような研究を目指して努力する所存です。最後に、3 年半にわたって私を指導して下さいました東京大学循環器内科の永井良三先生、前村浩二先生、また東京大学への国内留学の機会を作って下さった東京慈恵会医科大学の田嶋尚子先生、宇都宮一典先生にこの場を借りて感謝申し上げます。

### 平成 17 年度研究奨励賞研究報告

## HMG-CoA 還元酵素阻害薬(スタチン)による積極的脂質低下両方は急性医心筋梗塞患者において、白血球表面抗原(接着分子)や炎症性ケモカインの発現を阻害し、冠動脈形成術後の再狭窄を抑制するか？

福岡大学病院 循環器科 助手 岩田 敦 (20 回生)

このような賞をいただき誠にありがとうございました。選考委員の先生方、そして私を指導して下さいました福岡大学病院循環器科の朔啓二郎先生、三浦伸一郎先生に感謝申し上げます。以下に本研究の結果を報告させていただきます。

#### 1) 背景・目的

高脂血症治療薬のスタチン投与による LDL コレステロール (LDL-C) 低下療法の意義は多くの臨床試験で証明されている。近年、冠動脈疾患における LDL-C 治療目標値は従来の LDL-C100mg/dl 未満よりもさらに 70mg/dl 未満にまで低く設定する

ことが推奨され、このような治療により炎症マーカーである CRP の低下も示されている。一方、接着分子や炎症性ケモカインは動脈硬化巣形成に関与し、スタチンはこれら接着分子・ケモカインの発現を抑制する (LDL-C 低下作用以外の多面的効果)。さらに、スタチンの冠動脈形成術後の再狭窄抑制効果も報告されている。そこで急性心筋梗塞 (AMI) 患者において、スタチンの再狭窄抑制効果を解析し、さらに脂質プロフィール、接着分子や炎症性ケモカイン、CRP に及ぼす効果について検討した。

**2) 対象・方法**

対象は冠動脈形成術（ステント留置術）を施行されたAMI患者50名。LDL-Cが120mg/dl以上の症例にスタチンを投与し（スタチン投与群36名）、120mg/dl未満をコントロール群（14名）とした。AMI発症急性期と6ヶ月後に静脈血の測定および冠動脈造影所見の解析を行った。

**3) 結果**

スタチン非投与群は投与群に比し、高齢でBody mass index (BMI)が高値であったが、他の因子に両群間の差はなかった。スタチン投与群では6ヶ月後の最小血管内腔径が大きく、狭窄率(%DS)、晩期内腔損失径が有意に小さく血管内腔が保たれ、再狭窄率、再インターベンション率もスタチン投与群で低率であった。一方、接着分子、ケモカインの数は両群間に差は認めなかった。スタチン投与群では非投与群に対し、6ヶ月後の

CRP値が有意に低値であったが、%DS変化率とCRP値の相関はなかった。しかし%DS変化率とLDL-C変化率の間には有意な正の相関を認め、さらにLDL-C値を80mg/dl未満にまで治療した群では%DS変化率が小さく、内腔が保たれていた。多変量解析の結果、LDL-C変化率が唯一、%DS変化率の独立した規定因子であった。

**4) 結論**

スタチンによる接着分子、ケモカイン発現の抑制効果は認めず、CRP値と冠動脈狭窄率との間に関連はなかった。LDL-C値が80mg/dl未満に低下した症例ではステント留置後の成績が良好であり、LDL-C変化率が%DS変化率の独立した規定因子であった。したがって、再狭窄予防にはスタチンの多面的効果よりもLDL-C低下作用がより重要である。また、AMI症例のLDL-Cの治療目標値は80mg/dl未満が推奨される。

## 平成19年度 福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞 募集要項

**対 象：**正会員及び準会員で、40才未満の者または学部卒業後10年未満の者  
(本会会費完納を条件とする)

**研究課題：**医学に関するものであれば自由（医学に関する研究計画又は研究論文）

**申請方法：**所定の申請書による（所定欄に支部長推薦を要す）

**提出先：**〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局  
Tel 092-865-6353（直通） 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

**締 切：**平成19年5月1日

**賞状・賞金：**奨励賞（優秀論文賞を含む）5件以内

**発表及び表彰：**平成18年7月、第26回同窓会総会席上

**そ の 他：**①受賞者は研究報告書を提出する事（研究は2年以内に終了）

②受賞者は研究成果を総会で口演するか同窓会会報に発表する事

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事

④申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、研究の独創性・重要性を十分に書く事

教授就任挨拶

## 教授就任のご挨拶

福岡大学筑紫病院眼科 教授 向野 利 寛 (特別会員)



向野 利 寛 教授 略歴

- S49. 3 鳥取大学医学部卒  
九州大学眼科入局
- S58. 4 産業医科大学眼科助手
- S62. 8 産業医科大学眼科講師
- H 2. 4 福岡大学眼科助教授
- H 2.10 福岡大学筑紫病院眼科  
部長  
現在に至る。

このたび、福岡大学筑紫病院眼科教授に昇格いたしました。平成2年に福岡大学眼科助教授として産業医科大学より移籍した後、平成3年より福岡大学筑紫病院眼科を開設、以後15年間眼科部長を務めてきました。私の専門は網膜硝子体疾患の治療です。網膜硝子体疾患の病理学的解明を進めるために、筑紫病院に移ってからも毎週水曜日には医学部に行き、アニマルセンターで家兔を相手に実験を行っていました。最近筑紫病院での診療に追われ、基礎的実験は全くできていません。しかし、眼科の手術はほとんどが顕微鏡手術であり、実際の症例から多くのことを学ぶことができます。この手術中の観察を自分勝手に手術用顕微鏡的病理学と呼び、病態の理解に努めつつ臨床を行っています。

産業医大時代は網膜剥離の手術と共に眼瞼や眼窩、涙道の手術治療を手がけていましたので、筑紫病院では網膜硝子体疾患の治療を主としながら、眼瞼形成や眼窩底骨折、涙囊鼻腔吻合術など種々の手術を行っています。最近眼科の中での専門化が進み、その弊害も感じています。眼科外科医として、白内障手術はもとより網膜硝子体手術をはじめ色々な手術ができる眼科医を育てることを目標にしています。

福岡大学筑紫病院は古く狭い病院です。しかし、昨年より病院の建て替え、診療体制の刷新についての議論が進行しています。その中で筑紫病院が筑紫地区に根ざした大学病院としてどのような形の診療体制をとるのが良いかを模索しています。数年後には建物も中身もリフレッシュされた福岡大学筑紫病院になるように努力して行きたいと思っています。今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

## 教授就任のご挨拶

細胞生物学 教授 白澤 専二 (特別会員)



白澤 専二 教授 略歴

- S62. 3 九州大学医学部卒業
- S62. 6 九州大学医学部附属病院  
研修医
- S63. 4 浜の町病院研修医
- H 5. 3 九州大学大学院医学系  
研究科終了
- H 5. 4 九州大学生体防御医学  
研究所 助手
- H 5.10 米国ハワードヒューズ  
医学研究所・ワシントン  
大学医学部研究員
- H 8. 4 九州大学生体防御医学  
研究所遺伝学部門 助手
- H13. 6 国立国際医療センター  
研究所臨床病理研究部  
部長
- H18. 4 福岡大学医学部教授  
(細胞生物学教室)

平成 18 年 4 月より細胞生物学教室を主宰させていただくことになりました。教育の充実と臨床に直結する生命科学研究の発展に全力を挙げて取り組みたいと存じますので、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしく願い申し上げます。

私は、昭和 62 年に九州大学医学部を卒業し、2 年間の臨床研修を経て、九州大学生体防御医学研究所(笹月健彦教授)で研究を開始しました。当時、癌の研究で最も進んでいた大腸癌を研究テーマとし、ヒト体細胞レベルでの癌遺伝子 ras の破壊が癌細胞の特性を失わせることを明らかにし、癌の分子標的療法の可能性を世界に先駆けて報告しました。その後、プログラム細胞死研究の第一人者の一人、故 Stanley J. Korsmeyer 教授のもとで、ノックアウトマウス作製の技術を駆使することにより、神経系の分化に関するホメオボックス遺伝子の機能を解明してきました。帰国後、笹月研を経て、平成 13 年から 5 年間国立国際医療センター臨床病理研究部長として、それまでの研究を発展させると同時に、自己免疫疾患、糖尿病において疾患ゲノム解析研究を行い、オーダーメイド医療の実現に向けて研究を推進させてきました。

幸運なことに、研究を通じて遺伝学、組織学、細胞生物学、発生学を含む基礎医学を広く深く学ぶ機会に恵まれました。これらの研究により得られた知識と臨床医としての経験をもとに、人体構造学 I、II で、組織学、発生学を中心に臨床医にとって必要となる知識についてできるだけ簡潔にわかりやすく伝えるような講義を試みています。また、秋からは中枢神経解剖学も担当する予定です。学生さんにはしっかりと基礎医学を理解して欲しいので、講義のほとんどは責任をもって自分自身で行っています。良い医師となる最低限の条件は生命の理解と生物としてのヒト・社会における人間の理解であり、そのために基

礎医学の修得は重要であると教えています。

現在の私の研究分野は生命科学であり、主に免疫関連疾患、肥満・糖尿病、癌を対象として、分子・細胞・個体レベルでの解析を最先端の機器・方法論を導入して行い、病因・病態の解明と、それらの理解に立脚した先駆的な予防法・治療法の開発を目指しています。これらの研究は臨床医学において重要な意義を持ち、これらを学生さんに愛情と熱意をもって伝えることが、私自身の成長と彼らの卒業後の臨床家としての飛躍と臨床研究の推進につながるものと信じて、日々努力していく所存です。

## ご挨拶

耳鼻咽喉科学 教授 中川尚志 (特別会員)



中川尚志 教授 略歴

- S61. 3 九州大学医学部卒業
- S61. 6 同耳鼻咽喉科入局、同附属病院研修医
- S62. 1 国立福岡中央病院研修医
- S63. 4 九州大学医学系大学院外科学  
(耳鼻咽喉科) 専攻入学
- H 3. 9 同上 修了  
博士 (医学)
- H 3.10 九州大学医学部附属病院  
耳鼻咽喉科医員
- H 5. 5 国立福岡中央病院  
耳鼻咽喉科厚生技官
- H 7. 2 九州大学医学部附属病院  
耳鼻咽喉科助手
- H 7. 9 アメリカ合衆国  
ベイラー医科大学  
耳鼻咽喉科・研究助手
- H11. 2 九州大学医学部  
耳鼻咽喉科兼任講師
- H16. 8 同講師
- H17.11 九州大学大学院医学  
研究院  
臨床医学部門  
耳鼻咽喉科学分野 助教授
- H18. 4 福岡大学医学部  
耳鼻咽喉科学 主任教授

2006年4月1日付けで耳鼻咽喉科学教室の主任教授を拝命いたしました。曾田豊二先生、加藤壽彦先生に継いで、三代目の主任教授となります。両先生方が築きあげてこられました教室の流れを引継ぎ、より発展させていくことが私に与えられました使命です。その重責に身の引き締まる思いです。

まず自己紹介をさせていただきます。1986年に九州大学を卒業後、同年6月に同大学耳鼻咽喉科学教室に入局しました。卒業後3年目より大学院で生理学を3年間学びました。大学院2年の時に指導教官の赤池先生の東北大学教授就任に伴い、仙台に移り、2年間杜の都で過ごしました。モルモットの内耳の有毛細胞や聴神経を用い、神経の興奮や抑制に関わる膜イオンチャンネルをパッチクランプ法で解析しました。またスペースシャトルの乗務員の訓練施設や管制室で有名な米国テキサス州ヒューストンにあるベイラー医科大学耳鼻咽喉科学教室に1995年より2年間、留学しました。他には大濠公園横の城跡にありました九州医療センターの前身の国立福岡中央病院で研修医、スタッフとして2回、あわせて2年半お世話になりました。今年3月まで九州大学病院に勤務しておりました。

基礎研究、臨床とも専門は耳です。耳科、聴覚医学、平衡、顔面神経がキーワードです。中耳炎や真珠腫、アブミ骨手術、顔面神経やめまいの手術、聴器腫瘍に対する側頭骨手術、補聴器、人工内耳、難聴児教育まで含んだ小児難聴、難聴の遺伝相談など耳に関係するありとあらゆるものに取り組んでいます。福岡大学は聴こえを教室の主たるテーマとしておられます。そのような環境の中で自分が今まで学んだ知識を活かし、寄与できる機会を与えられて幸いです。聴覚医学はもちろんのこと、手術を中心とした耳科学を加えて、生まれてから老後に至るまで、耳に関しては福岡大学病院にかかっておけば大丈夫という臨床を目指したいと考えています。耳に関係した疾患である顔面神経やめまいはもちろんのこと、鼻、嚥下、悪性腫瘍を含めた頭頸部外科などにも積極的に取り組んでいくつもりです。

研究や教育、臨床、大学病院の経営、すべてにおいて先生方のご支援があつてこそなりました。ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしく願いいたします。

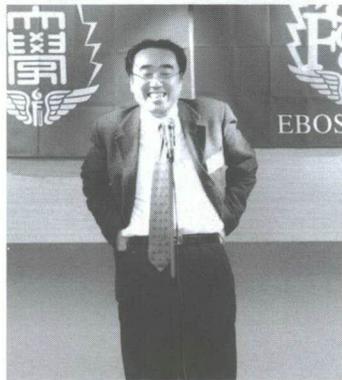
## 学生対策行事

## 国試激励会

常任理事 占部嘉男 (5回生)

4月21日に、学生51名、卒業生20名が参加して、福新楼にて国試激励会が行われました。皆様もご承知のように、今年の国試の結果は惨憺たるもので、卒業生の激励のことばも、お叱りの意味合いが強いものでした。今回気付いたのですが、学生の参加者が非常に減っていることです。数年前に始めた当初は

80人近く参加していたようですが、今回の出席率は44%(留年生に限れば23%)。わが国の国政選挙の投票率なみの低さに、学生の間にもしらせ気質がはびこっているのかと考えさせられています。笛吹けど学生踊らず。笛に変わる妙案はないものかと、烏帽子会では頭を悩ますことは当分続きそうです。



激励する先輩たち (左から上村 /5回生、前川 /2回生、詠田 /3回生)

## 新入生歓迎会

常任理事 笠健児朗 (12回生)

平成18年5月19日、天神の福新楼にて平成18年度新入生歓迎会が同窓会主催で行われました。国家試験の低迷期に始まった事業で、6年生、4年生と1年生に激励会、歓迎会を行っています。学生さんと話してみると、全ての学生が『学年全体で集まった事がない』とわかり、その意味でも必要と考えています。確かに「飲み会をやればそれでいいのか!」の御意見ももっともですが、「学年がまとまっている時は国試もいい。」も事実です。

本年度の新入生も1年生もちょうど100人です。当日は90人の諸君が出席してくれました。歓迎するOB:OGは16人です。6回生小川理事の司会で高木会長の挨拶から始まり権藤福岡支部長の乾杯で開宴となりました。多数のOB:OGから歓迎の言葉が贈られ、新入生諸君もまじめに聞いてくれていました。今

回は先日の国試のこともあり、例年より強めの話が多かった様でした。会も進み新入生代表、松岡優太君が謝辞と決意表明をおこなってくれ、校歌斉唱でお開きとなりました。この100人を歓迎するとともに同窓として今後の活躍を切に期待する夕べとなりました。



お揃いのTシャツを着て

## M4 激励会

常任理事 小川 厚 (6 回生)

烏帽子会恒例のM4激励会が平成18年9月15日(金)に福新楼にて行われました。今回のメインテーマは今年最下位だった国家試験の合格率をいかにして引き上げるかです。高木会長の挨拶の後、主担任の向坂彰太郎教授(内科

学第三)の激励の御挨拶をいただいて会は始められました。福大生はおとなしい印象があるのもっと活発にとのお言葉でした。その後、副担任の桂木教授、宇都宮、丹生助教授、前田講師の厳しくも暖かいお言葉をいただきました。また学内外を問わず参加してくださったOB諸氏から様々なアドバイスに学生たちも熱心に聞き入っておりました。会のエンディングでは恒例の、一同が肩を組み輪を作って校歌を斉唱いたしました。彼らのこれからの目標はただひとつ、医師国家試験合格です。同窓会は夏期集中講座の手伝いなど学生教育支援にも積極的に取り組んでおります。同窓会会員の皆様、どうか学生たちの応援よろしく願いたします。(文責:小川厚)



校歌斉唱

## M4 激励会に寄せて

常任理事 二田 哲博 (9 回生)

私は、西区姪浜で糖尿病・甲状腺疾患の専門クリニックを開院しています。開院して5年目になる今年は糖尿病部門のさらなる強化を目標にしています。糖尿病の9割は食事療法と運動療法にかかっています。この20年来糖尿病を治療するために医師は食事や運動療法を患者に教育してきたわけですが、患者がそれらを完璧に続けることができないのは、患者の意思の弱さにあると言われてきました。しかし私は、9割の患者が実行できないということは、患者の意思の弱さよりもその方法に問題があるのではないかと感じてきました。

ただ、歩けと言われても歩くのが好きじゃない人もいますし、ジムに頻回に通う事はコストや時間の面で難しいでしょう。本来、医療機関がやるべきことは、病院に来て運動させることではなく、その人がやりたい運動を見つけ出

し、生活の中にどのように組み込めるかを計画していく事だと思います。

また、食事療法に関しても私達は栄養学から考える食事ではなく、料理学から考えた食事を望んでいるのではないのでしょうか。

ですから継続性のある食事療法を行うには、美味しい料理を教えられるかどうにかかっていると思います。

当院では、これらを実践するために、運動療法についてはウォーキングやピラティスなど患者の好みに合わせた様々な運動を運動指導士が個人指導し、食事療法については管理栄養士が患者と一緒にスーパーに買い物に行き栄養学から商品の見方や選び方などを教えています。また、来春にはキッチンを併設した施設が完成予定で、実際に美味しく健康的な調理方法が体験出来るように計画中です。

これらの私が理想とする医療を永続性のあるものにしていくには、乗り越えなければならぬ課題が多くあると思いますが、今後も強い信念を持って取り組んでいきたいと思っています。

ここにいる4年生の諸君は、あと3年も経てば全員が医師となり、私達の仲間になるわけです。

どんな医師になりたいか、どんな事をやり遂げたいのか念頭に置き、その実現に向かって頑張ってください。

その為にも、一日も早く国家試験の勉強に取り組んで現役合格を果たして下さい。

同じ医師としてみなさんとチカラを合わせて、よりよい医療の実現の為に共に頑張る日が来る事を楽しみにしています。

## 教室・医局紹介

# 放射線医学教室・医局紹介

放射線医学教室 清水 健太郎 (17 回生)

福岡大学放射線医学教室は岡崎正敏主任教授、桑原康雄教授を中心とし、宇都宮英綱助教授、講師1名、助手8名、医員6名にて構成されており、放射線医学を専門とし、検査、診断、治療を通して患者さんへの「あたたかい医療」の提供に心がけております。

放射線科は、全身臓器の検査・診断および治療に関わっており、診断も従来のX線装置、血管造影、放射線同位元素を用いた画像診断に加え、超音波、CT、MRIを用いた診断へと拡がってきました。特に近年の医療機器の進歩は目覚しく、大病院として高度な検査、診断、治療を行うには、機器の整備が不可欠です。当院には64列と4列のMDCT(救命センター内には16列のMDCTを配備)や1.5TのMRIが稼動しています。また、来年5月よりはPET-CTの導入も予定されており、さらに充実した画像診断を目指しています。

当教室は現在、血管造影・Interventional Radiology (IVR)、神経放射線画像診断、体幹部画像診断、核医学治療にわかれており、臨床、教育、研究を行っております。

診療内容は、自科のみならず中央診療部門として病院全体のCT、MRI、超音波、血管造影、RI等の

画像診断を行っております。現在の医療において、病気を正確に診断していくために医療画像は非常に重要な役割を担っており、放射線科ではこれらの検査を専門的に施行し、画像を読み影し病気を診断しています。悪性腫瘍に対する放射線治療は、放射線を用いて病気の治療を行う領域で、手術、化学療法と並んで癌の治療の三本柱の一つです。また、非密封アイトープを利用した核医学治療も行われております。そして、画像診断を治療に応用した低侵襲治療IVRと呼ばれる領域があります。当教室では肝臓悪性腫瘍に対する血管塞栓術をはじめ、腹腔内出血に対する止血など



多方面にわたる血管内治療、体外から病変に直接穿刺して行うラジオ波治療、ほか経皮的椎体形成術などが行われています。研究面では、医療機器の進歩にともない、診断・治療の対象もさらに全身の臓器へと広がります。そのため研究対象も最新機器を使用することにより様々な点から各臓器・疾患へとアプローチし、数多くの研究を行っています。教育面では、医学生のみならず、卒後臨床研修医、医員（後期臨床研修）の教育には特に力をいれており、先に述べた4つの部門にて幅広い臨床知識と共に高度の専門性を習得し、専門性と

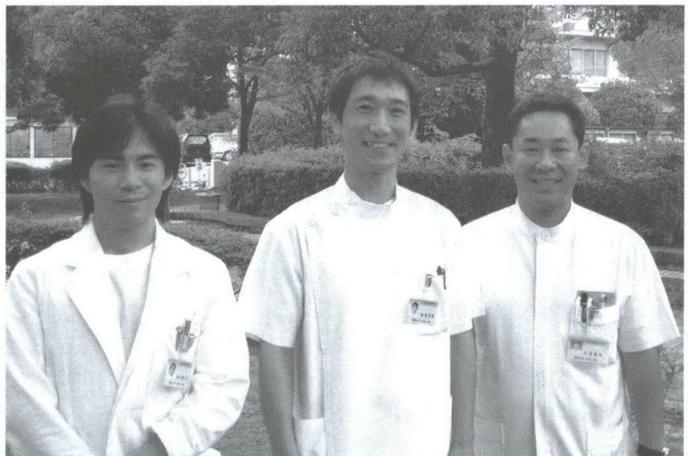
Generalistの両者の立場を統一できる放射線科専門医の育成を目指しております。

放射線医学が誕生して100年あまりが経ちますが、この30年間の進歩は特に著しく、臨床医学全般に広く深い影響を与え、現在の診療には不可欠な存在となっています。そのため、新しい医療機器、技術、画像診断を正しく臨床に役立てるには、幅広い臨床知識と共に高度の専門性が必要とされます。我々もできる限り優秀な放射線科医を育て福大病院のみならず、日本の医療の向上に貢献したいと考えています。

## 総合診療部 医局紹介

総合診療部 診療部長 鍋島茂樹 (13回生)

総合診療部は平成17年の4月に開設された新しい診療科です。メンバーは3人のみ、部長（鍋島）、医局長（白濱）、外来医長（柏木）と役職だけのシンプルな構成です。医局は、研修センター（昔の看護婦寮）五階に快適な一室を確保していただいています。男所帯にしてはわりと片付きますが、秘書さんがいないのが寂しいところです。私は、福岡大学を卒業した後、当時出来て間もない九州大学の総合診療部に入局し、途中、大学院を経て10数年間を九大総合診療部で過ごしました。福大病院に総合診療部



柏木謙一郎

鍋島茂樹

白濱重敏

が開設されるにあたり、当時副院長であられた田村和夫先生より声をかけていただいたことで、思いがけず、こういった形で母校に帰ってくることとなり、大変光栄に思っています。

全国の大学病院には、現在のところ43の総合診療部あるいはその関連部局が設置されていますが、その役割は様々です。「総合診療部とは何をするとところか」という質問が多いのも、その理念や業務内容がはっきりせず、混乱している証左であると思います。わが福大病院では、総合診療部開設にあたり設立準備委員会が作られ、1) 研修医の臨床教育にあたる、2) 1次2次救急を受け持つ、という大きな枠

組みができました。かねてより、大学病院の総合診療部の役割については思うところあり、福大らしい総合診療部とは何かについて、初代部長（兼任）の田村先生とディスカッションを重ね、「プライマリ・ケアの実践と教育を通じて、地域に良質な実地医家を送り出す」という理念がかたまってきました。これを福大病院の中でいかにして実行していくか、ということが問題です。しかし、そもそもプライマリ・ケアの定義はあいまいで、医師個人個人で受け取り方も違います。そこで私たちは、現時点で福大病院でのプライマリ・ケア業務を「内科外来での初期診療」に絞って考えていま

す。本来は紹介状を持って受診すべき大学病院の内科外来には、紹介状のない患者さんや、「内科」宛の紹介状を持つ患者さん、救急車で来院する患者さんも多く受診します。総合診療部はこれらの患者さんをきちんと診断し、初期治療を行うことを通して、「内科診断学」を若い医者に教えていくことが任務です。このやり方は同時に、他の専門内科外来にとっては、専門診療に特化することができ、各科の負担軽減にもなると考えています。また、他の内科との連携や診療内容の重複を避けるため、長期にわたる継続治療を行わず、慢性疾患は診断と初期評価のみにしています。入院が必要な場合は、あちこちをお願いしてとっ

てもらっています。そして、将来的には、特に夜間休日の救急や、外傷の処置、一次救急レベルの小児科を取り入れ、教育できる体制を創っていきたいと考えています。

平成17年度は初診患者を2200名ほど診察しました。この内、20%を他の診療科に振り分けています。2%弱が入院になっています。また、週3回は1年次研修医を外来に呼び、終日研修を行ってもらっています。いつの日か、私たちのところを卒業して、一人前のジェネラリストとして巣立っていく医師が出てきてくれれば、これほどうれしいことはありません。同門会の諸先生方、どうぞ総合診療部をよろしくおひきた下さい。

### 同窓生交歓(第六回生)

## 絆 (きずな)

平野

基(平野内科消化器科医院 院長)



秋色いよいよ濃く、夜長の候となりました。早朝のひんやりとした空気の中に秋の深まりを感じる今日この頃です。われわれ6回生が医学部同窓会総会の当番世話役を終えて、はや3年以上が経過してしまいました。

先日、ふと某テレビ局のチャリティー番組を見ていて、今年の番組のスローガン「絆」という言葉に感慨深いものを感じました。「絆」は不可欠なもので、これにより救われている部分があることを痛感しています。私たちが医学部同窓生として同じ学び舎で苦楽を共にした学友としての絆によつてこの二十数年間繋がってきました。あの頃は毎日顔をあわせ、他愛のない話題で盛り上がることもしばしばでした。しかし昨今では皆、働いている地域も異なり、それぞれに多忙であるためなかなか会う事もありません。

今後私たち同窓生の「絆」をより一層深めていくためにも、どのような些細な事でも連絡を取り合える環境を作っていく必要があります。6回生の間では総会のお世話をさせていただきました時にメーリングリストを作りましたが、参加人数もなかなか増えずその後はあまり機能していません。今後これを期に再度メーリングリストによる情報交換の充実を図り、同窓生の「絆」を維持するために役立てていきたいと考えています。

6回生の近況としては、福岡赤十字病院の部長をしている上村精一郎君が昨年、「市民公開講座」の大役を果たしました。また福大小児科出身の倉岡抄子さんが博多区諸岡で「くらおかしょうこどもクリニック」を開院され「活躍中」です。同窓会の皆様の更なる「発展」をお祈りいたします。

会員寄稿

## 啓明大学との交換臨床実習

病理学・国際センター委員 坂田 則行 (特別会員)

昨年から今年にかけて韓国の大邱市にある啓明大学医学部との間でBSL実習を中心にした交換交流を行いました。この交流は、守山正樹教授を担当者として平成17年3月23日付けで独立行政法人日本学生支援機構の平成17年度国際大学交流セミナーに応募し、実現したものです。同年10月21日付けで採用となり、ただちに医学部教授会に諮られ、本格的準備が開始されました。平成18年1月22日、韓国の啓明大学医学部6年生9名が教職員(のべ5名)とともに来日し、2週間福岡に滞在し平成18年2月4日韓国に帰国しました。この間、我が校の医学部5年生とともに福岡大学病院での臨床実習、教育に関するシンポジウム、研修旅行、BSL体験交流シンポジウムなど様々な企画に参加し、福岡大学と啓明大学との交流が図られました。これをきっかけに、平成18年5月7日から14日にかけて我が校のM6の学生10名が教職員(のべ5名)とともに韓国の大邱市を訪れ、啓明大学医学部でのBSL実習に参加しました。このように多くの学生が韓国での実習に参加することができたことの一つに、福岡大学医学部同窓会「烏帽子会」からの援助があったことを申し述べなくてはなりません。改めて、この紙面を借りてお礼を申し上げたいと思います。

このような臨床教育の場を通しての韓国啓明大学との医学生交流は、福岡大学の今後の国際交流のあり方に大きな成果を残したと思っています。それは、来年か再来年には医師となる学生間の交流であったという点です。このことは、この交流が語学研修や異文化を知る、体験するといった教養的なものにとどまらず、近い将来それぞれの国で医師になるという明確な目的意識をもった交流であったということです。

この交流セミナーを体験した学生が、近い将来日本と韓国の医学・医療の担い手となり、この分野での交流を大きく発展させる貴重な原動力になると期待しています。現在、啓明大との間には姉妹校協定を結ぶことが国際センター企画推進会議で了承され、今後継続的に交流する方向で話が進んでいます。

まだ解決すべき課題も多くありますが、この交流が発展的に継続し、福岡大学医学部と医学生国際化に少しでも役立つことを願っています。

今回の交流に参加した啓明大学と我が校の学生の感想文の一部を以下に紹介します。

### 啓明大学生 A

I had not been to Japan before I came to Japan to participate in this program. During 2 weeks stay, I experience a lot and learned a lot. My impression is that Fukuoka hospital is well arranged and patient-oriented. I was impressed that students could have chance or opportunities to exercise with some devices and machines like ultrasonogram and endoscopy. It seems to be very educationable in some point of view. I found Japanese system to be very educationable. I think we can take some good points from Japan. Another important thing is we can improve the relationship well between Korea and Japan through this program.

### 啓明大学生 B

I enjoyed my clerkship here and still enjoying--. But there are some problems that I felt. We came here to learn and experience not just

educational learning. But some department, we separated alone, just learned about disease and patients. It's very important, but that's all. We can learn it also in Korea. Here what I felt and learned is from Japanese students. Because they are in same level with us. I felt they study hard, do many activities. So I want to contact with them in the future after graduation. Furthermore, it will help me to be an international doctor, and it is "the Result of exchange program". This week (2nd week), I'm separated with my friends and have no contact with Japanese students. And doctors avoid me because they are very busy and I'm foreign student. I guess it will be same in Korea. To be successful program and to have developing potential, the doctors who are in hospital must have responsibility and help students.

#### 福岡大学生 A 日韓交換留学における感想

この度は、我々十名の学生を交換留学プログラムに参加させていただき、誠にありがとうございました。まず、この交換留学プログラムを継続していただきたいという希望を表明しておきます。さて、この交換留学において、私は形成外科を見学させていただきました。形成外科を希望した理由は、白本のテレビ番組などで、韓国では美容整形が活発であり、日本人の旅行客が美容整形を受けて帰ってくるといったため、実際どれほどのものか見てみたいと思ったからでした。韓国に着くまでは細かなプログラムは存じておりませんでした。中に一日、美容整形クリニックの見学を用意していただいたのには、本当に良かったと思いました。韓国の大学の形成外科は美容が三割と、若干日本に比べて美容外科の割合が多かったです。使われている道具、感染症対策、患者への対応は、十分とはいえませんでした。見学に来ている医学生の英語力、知っている医学英語の量は、当医学部より優れていたのではないかと思います。

ドクターや学生からの食事への招待もあり、一週間を通して大変歓迎されたようにも思いました。土曜日には安東への観光もあり、韓国文化に触れることも出来ました。この一週間は、医学のみでなく、韓国の方が日本人に対して実際どのような感情を持たれているのかを知るきっかけになったと思います。全ての韓国の方が日本に対して良いイメージを持っているとは思いませんが、少なくとも我々が今回めぐり合った方々は、日本と仲良くしたいと願っていると感じました。

今回は初めての交換留学ということもあり、日韓お互いに無理をして盛り上げようといっていたように感じました。今プログラムを経験し、私は是非、継続してほしいと願います。そのためには、お互い予算を継続できるほどに抑え、あまり観光などに力を注ぎ過ぎないようにすべきかと思います。また、是非アメリカや中国など、多くの国々にも行けるようになれば、さらに良いものになると考えます。

残念なことに、私は去年の冬、韓国からの留學生の方々が来られていた時、筑紫病院に実習に行っていたため、フェアウェルパーティーにしか参加できませんでした。そのため、『迎える』という、交換の片方を体験できませんでした。もし次があり、その時後輩の学生に期待することがあるとすれば、是非彼らと話してほしいと思います。そして、彼らとの共通点、相違点を肌で感じてほしいと思います。さらに機会があれば、是非交換留学プログラムに参加して、韓国、もしくはその他の国の医療を体験してほしいと願います。ただ旅行に行くのではなく、一人の医学生として、今後の医療活動への糧にしてほしいと願います。最後に、守山先生、坂田先生をはじめとする福岡大学医学部の先生方、事務の方々、啓明大学の先生方、事務の方々、医学生の皆さん、何事にも変えがたい貴重な経験を、本当にありがとうございました。



平成 18 年 1 月 22 日 福岡大学医学部 福岡市



平成 18 年 5 月 11 日 啓明大學医学部 大邱市

## 支部だより

## 佐世保支部だより

佐世保支部長 冨田 寿三 (7回生)

みなさんお元気ですか。少ない人数ながらも、ぼちぼちと活動している佐世保支部の近況を報告させていただきます。

佐世保支部は、東彼杵より平戸・松浦までの長崎県北部をエリアとして、平成18年4月現在 開業医21名、勤務医12名 計33名の会員で支部を運営しています。

支部としての同窓会は、年に1～2回、久留米大学佐世保支部との合同学術講演会（それぞれの大学より講演をしていただいて）を年に2回とピアガーデン会を1回開催しています。

平成17年より有信会佐世保支部が設立（69名参加）され、医学部同窓会の会員も副支部長、幹事を任命され、医学部ばかりでなく、福岡大学全体の会員相互の和が広がってきています。

また今年で佐世保支部も、設立より7年半経ち、一度は家族との交流会でも開こうかということで、4月15日に第1回

目の家族会を大人20名（美人の奥さん8名を含む）と子供8名で開催しました。

まだまだ小さな会ですが、会員ならびに、ご婦人・子供さんと、和気あいあいと話が弾み、抽選会（あみだくじと、子供だけのじゃんけん）でさらに盛り上がり、盛会のうちに夜はふけました。



## 第4回福岡大学医学部同窓会朝倉支部総会

田 邊 庸 一 (3回生)

平成18年6月10日甘木の松屋ガーデンパレスにおいて定期総会を行った。

特別会員である丸田治生先生が平成17年9月26日に亡くなられた。丸田先生は福岡大学医学部内科Ⅱに在籍されその後夜須にて開業されていた。昨年の支部総会には自宅療養中ではあったが出席され皆と談笑されていたが残念である。副支部長の中林先生は何かと丸田医院のお世話をされ大変だったと思う。私個人としては丸たんぼうと盆前まで週1～2ペースで麻雀を楽しんでいた。麻雀の時は私の順番が来るたびに遅いと怒られながら負けていた。黙祷を行いご冥福を祈った。

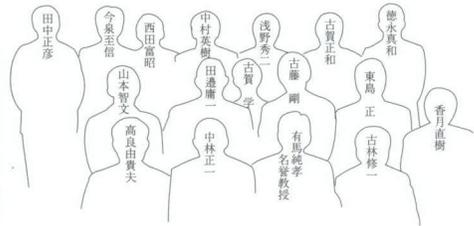
市町村合併に伴い甘木市と朝倉町及び杷木

町が合併し朝倉市になったため朝倉郡と朝倉市だけになったため支部名を甘木朝倉支部より朝倉支部に変更することに決まった。

総会終了後に元福岡大学筑紫病院外科教授の有馬純孝先生より「外科からみた炎症性腸疾患」という特別講演をして頂き内科出身の自分には新鮮な講演であった。有馬先生は若い外科医に聞かせたいと言われていた。

講演後懇親会となり無事終了し二次会には6名参加していた。

現在の会員数は正会員が22名、特別会員が9名である。支部活動としてはいまだに総会のみで少なくとも年に2回は集まりたいと皆で話している。



## 筑後支部だより

筑後支部評議員 宿里 芳孝 (10 回生)

同窓会筑後支部は久留米、大牟田三池、八女筑後、柳川山門、小郡三池、浮羽、大川三潁地区の7地区に分かれ、会員数は開業医は40名を、勤務医は100名を越えており、毎年150通前後の支部総会案内状を送っております。

支部総会は毎年6月上旬にハイネスホテル久留米にて開催し、例年高木同窓会会長(1回卒)や重田副会長(2回卒)、権藤公和理事(1回卒)に来賓として出席していただいておりますが、平成18年度は林英之副会長(1回卒)に初めて出席していただき、医学部入試、医師国家試験、新病棟建設、同窓会の活動など多岐に渡って語っていただきました。

また、学術講演会を必ず行っており、母校のトップレベルは今何をしているのかを講演会で知ること、勉強になること以上に、非常な励みと誇りを感じます。

このように支部総会では本部の情報、新支部会員の紹介、講演会などを行ったのちに、懇親会を行っています。懇親会は終始和気あいあいとした雰囲気、自分達のこと、母校のことなどで盛り上がります。今年度は1回卒から新卒の29回卒までの先生計37名の出席がありました(昨年度は41名出席)。出席してみると大学時代の友人と会えるかもしれません



し、知らなかった人と知り合いになったりもしますので、もっと多くの会員の方に参加していただきたいとの想いで、支部からの補助を大幅に増額し、筑後支部総会参加費は、勤務医が2,000円と激安になっておりますし、開業医も今年度から8,000円から5,000円に下げましたので、初めての方もふるって参加していただきたいと思います。

最後に、当支部では本部年会費の支部での徴収率100%を維持しております。支部会員の方には、この場をお借りしまして御礼申し上げますとともに、筑後支部の近況報告とさせていただきます。

## 特集 クラブ生まれて30年

## 『北アルプスの青い空』ワンダーフォーゲル愛好会

さかうえ内科循環器科 院長 坂上 明彦 (6回生)



秋の抜ける様な青空を見上げながらヒンヤリした空気を頬に受けると、30年前のワンダーフォーゲル時代の北アルプスの硬い岩を踏みながら槍へ向かった頃を思い出す。

1977年福大医学部へ入学し何となく毎日を過ごしていると、現在福大第一外科の古藤君が“福大医学部には山岳部が無いから作りましょうか”と話しかけてきた。小生、社会人からの入学であり槍穂縦走の経験が一度だけはある、なんとなくまあやってみましょうかとOKし、事務方に山岳部創設の話を持って行きましたが、当時久留米医大の山岳部が死亡事故を幾度か繰り返しておりなかなか認められず、結局、冬山登山、沢登りを含めたロッククライミングを避けたワンダーフォーゲルならば良からうと言う事になり、同級生を部員として登録し、規約を提出し、最後に心臓外科浅尾教授に顧問をお願いして福大医学部ワンダーフォーゲル愛好会が発足する事となった。

練習は毎日放課後に病院の回りを2周した後、油山の登り口で腕立て腹筋20回ずつを2回済ませ、幅の広い急な階段を3回ダッシュした後油山を走った。時に医学部事務の権藤さんも一緒に走っ

た。日曜日には周辺の宝満若杉縦走や福知山、帆柱山縦走等を、連休には天拝山、背振、雷山縦走や多良経ヶ岳縦走等をやりながら、最初の夏は宝満ボッカ(砂やブロックをザックにつめて訓練する事)を済ませた後、多胡、近藤、福家、星子君を含めて6人で北アルプスへ出かけた。

当時は、まず名古屋まで行き、中央本線に乗り換えて夜行列車の座席の下で寝て松本まで行き、電車とバスを乗り継いでようやく朝方の上高地へ到着した。上高地から歩き始め徳沢、横尾を越えいよいよ槍の登りとなる。重いザックも最初の一時間をゆっくり汗をかけば後はがんばれる事を経験的に知っているのも、なんとか槍山頂小屋へ到着しテントを張った。当時のテントは布地で雨に濡れるとひどく重くなったが、その後は軽くて雨が降り込まず水の上でも濡れない良質のテントに変わって行った。

活動の拠点は北アルプスの夏山縦走であり、剣槍穂高縦走や白馬後立山縦走から白馬鹿島槍三俣蓮華槍穂縦走等と他大学の体育会系ワンゲル部のコースを縦走した。縦走途中の烏帽子岳からの雲ひとつ無い365度のパノラマ



は遠く槍の頂上や富士山の眺望が見渡せ、まるで時間が止まった様に感じられた。剣岳での三重ブロッケンに自分の姿が映っている現象等は今でも忘れられない。船窪岳の手前で西南大学の1年生のワングル部員岩下君が50m程滑落し鳥取大学の山岳部員達と助け上げヘリで大町の病院へ無事搬送された事や、星子、永田君達が南アルプス縦走へ出かけた時には、二つの台風に出会い縦走路が流され、自衛隊のヘリに救助されたりした事もあったが部員の大きな事故は皆無であった。その後

も森、柳澤君が穂高から槍ヶ岳、朝日岳を越えて日本海の親不知に至る約2週間の縦走を成し遂げ活動が持続して行った。

当時、浅尾教授ご夫妻のお世話になり由布岳に登った事や、西園教授の学部長登山では大勢の人々とやまなみ荘に泊り久住に登った事が思い出されます。30年が経過し、最近ではアルプスも遠くなり、産婦人科の永田君を中心としたOB会を温泉宿で楽しんでいます。野中君が病に倒れたのが残念です。

## 英語研究会

案浦クリニック 副院長 案 浦 美 雪 (11 回生)

「英語研究会生まれて30年」との題をいただいたものの果たして私に語る資格があるのかしら?と悩みつつ、キーボードをたたいております。というのも、英研の誕生は私の入部する前で、最近の動向についてはまったくご無沙汰しております…ごめんなさい。というわけですが、人間にたとえると多分ヨチヨチ歩きの時代を知っている者の昔語りとして少しお話をさせていただきます。

創設は2回生の先輩方によったと伺っていますが、私は医学英語の研究会として発足しJIMSA (Japanese International Medical Student Association) に加入し、全国大会にも参加し始めたころに入部しました。ここで初めてdebate大会なるものに参加し、ルール

すらよくわからないまま試行錯誤で苦勞した思い出があります。このやり方を教えてもらいに久留米大学に伺ったこともありました。そのころ福岡県内や九州の他大学との交流ももち始め、九州大会をした記憶もあります。BML (Basic Medical Lecture) やCPC (Clinical Pathological Conference) も経験しました。このころは参加することに意義を見出していた時代でしたが、最近では全国大会でもすばらしい成績を取っていると聞き及んでおります。

大会ばかりでなく日々の活動では英会話を習いに行ったり、医学英語の勉強会をしたり…時にはドイツ語の試験対策もしましたが…部誌の発行にも力を入れておりました。Home stayの学生さんや留学生とあちこち出かけた思い出もあります。

数少ない文化部でしたから、部員数はかなりいて、和気藹々と楽しんでいた記憶のみが残っていて改めて、部史をと問われると困ってしまいます。本当に最近の活動は何も知らなくて、Speech Contestで優勝した、準優勝だったという話を耳にして感嘆するばかりです。福大医学部生全体の英語力も上昇しているようですし、ますますの部の発展を陰ながら応援して、OGの昔語りを終わらせていただきます。



1985年夏 東京女子医大での発表

# 福岡大学医学部同窓会資料

## 平成 17 年度収入支出決算

区分	科 目	17 予算 :A	17 決算 :B	17 決算予算比較	決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	5,000,000	8,350,418	3,350,418	
	会 費 収 入	23,445,000	24,557,660	1,112,660	入会費 :7,329,470 学年会費 :4,559,530 正会員年会費 :12,555,080 準会員年会費 : 113,580
	協賛金収入	0	0	0	
	手数料収入	1,180,000	675,440	▲ 504,560	生命保険集金手数料
	雑 収 入	430,000	180,400	▲ 249,600	グッズ売上ほか
	預り金収入	108,000	146,960	38,960	給与源泉徴収税
	積立金繰入	0	0	0	
	仮 受 金	0	1,500,000	1,500,000	代理店勘定運転資金として同窓会勘定より仮受
	合 計	30,163,000	35,410,878	5,247,878	
支 出	給 与	4,040,000	4,115,160	75,160	職員 1 名、パート 2 名
	旅 費	1,970,000	1,697,141	▲ 272,859	役員業務旅費 :785,940 評議員会 :344,960 通勤旅費 :106,500 その他 :459,741
	事務用品費	360,000	213,714	▲ 146,286	
	印 刷 費	2,040,000	1,710,010	▲ 329,990	会報 (年 2 回) :1,490,580 その他 :219,430
	通信運搬費	1,460,000	1,311,163	▲ 148,837	電信電話 :93,478 会報 :622,970 切手業書代 :422,100 その他 :172,615
	設備工事費	310,000	214,500	▲ 95,500	ホーム・ジ 維持契約 :210,000 その他 :4,500
	什器備品費	200,000	26,617	▲ 173,383	
	事 業 費	11,300,000	6,087,412	▲ 5,212,588	講師招聘援助 :130,000 支部活動費 :917,355 研究奨励賞 :307,350 在外研究援助金 :600,000 学生対策費 :1,928,227 BSL 用白衣贈与 :826,368 国試対策費 :730,057 その他 :648,055
	会 議 費	1,500,000	1,460,493	▲ 39,507	理事会、会長懇話会 :328,512 評議員会 :467,415 奨励賞選考委員会 :61,000 私大連絡会 : 307,426 学部長その他と懇談 : 295,300 その他 : 840
	公 租 公 課	70,000	70,000	0	法人県市民税 :70,000
	雑 費	2,432,000	2,738,908	306,908	慶弔費 :987,665 渉外費 :436,600 学会寄付金 : 500,000 グッズ作製費ほか : 814,643
	預り金支出	108,000	141,960	33,960	給与源泉徴収税
	引当金積立	2,000,000	2,000,000	0	本年度積立中止
	仮 渡 金	0	1,500,000	1,500,000	
	予 備 費	3,373,000	0	▲ 3,373,000	
	合 計	30,163,000	23,287,078	▲ 6,875,922	
収 支 差 引	0	12,123,800	12,123,800		

## 平成 17 年度残金処分

残 金 額 ( 収 支 差 引 額 )	12,123,800 円
事 業 積 立 金 積 立	4,000,000 円
次 年 度 繰 越	8,123,800 円

## 平成 17 年度特別会計決算

	事業積立金	医学教育研究基金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	94,810,958	3,063,317	5,010,433	102,884,708
本年度増加額	0	0	2,000,000	2,000,000
本年度受取利息	147,123	4,625	0	151,748
本年度減少額	0	0	0	0
本年度未決額	94,958,081	3,067,942	7,010,433	105,036,456

## 平成 18 年度事業計画

項 目	摘 要	平成 18 年度 必要経費(A)	平成 17 年度 必要経費(B)	比 較 (A - B)
① 会報の発行	印刷代：春 190×4,100 部 =779,000 秋 190×4,700 部 =893,000 封筒代： 10×9,000 枚 = 90,000 郵送料： 120×7,040 通 =845,000	2,067,000	2,650,000	▲ 43,000
② 総会の開催	総会準備費：200,000 新入生歓迎費(100 人分)：500,000	700,000	200,000	500,000
③ 支部活動援助	講師招聘援助費：50,000× 10 支部 = 500,000 支部活動費： 2,000×500 人分 = 1,000,000	1,500,000	1,500,000	0
④ 研究奨励	5 件以内	1,500,000	1,500,000	0
⑤ 在外研究援助	1 件 20 万円以内	2,000,000	2,000,000	0
⑥ 学生対策	新入生歓迎会：800,000 (T シャツ含む) M4 激励会：700,000 国試激励会：700,000	2,200,000	2,200,000	0
⑦ 白衣贈与	BSL 用長衣、短衣： 10,000×100 人 = 1,000,000	1,000,000	1,000,000	0
⑧ 国試対策	国試対策費：1,000,000 副担任会議：200,000 国試応援費：200,000	1,400,000	650,000	750,000
⑨ 支部祝儀贈与	支部発足：50,000× 2=100,000 支部会参加：30,000×10=300,000	400,000	400,000	0
⑩ 学生行事援助	西医体、全医体、医学祭援助：400,000 学生行事への参加：100,000	500,000	500,000	0
⑪ 慶弔贈与	祝儀、弔慰金、見舞金：20,000×5=100,000	100,000	100,000	0
⑫ グッズ作製	グッズ作製 (ネクタイピン)	500,000	600,000	▲ 100,000
⑬ 会員名簿の発行	(今年度は実施せず)	0	0	0
⑭ パニックマニュアルの発行	(今年度は実施せず)	0	0	0
⑮ 奨学金緊急貸与	緊急時における奨学金の貸与	1,000,000	1,000,000	0
合 計		15,407,000	14,300,000	1,107,000

## 平成 18 年度収入支出予算

区分	科目	17 予算	18 予算	18 年度予算摘要	18 予算-17 予算
収 入	繰越金	5,000,000	8,000,000		3,000,000
	会費収入	23,445,000	24,620,000	入会費：4,738,000 学年会費：4,468,000 年会費：15,014,000 準年会費：400,000	1,175,000
	協賛金収入	0	0		0
	手数料収入	1,180,000	650,000	集金手数料ほか	▲ 530,000
	雑収入	430,000	430,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	108,000	134,000	給与源泉徴収税	26,000
	積立金繰入	0	0		0
	仮受金	0	2,000,000	代理店勘定運転資金として同窓会勘定より仮受	2,000,000
	合計	30,163,000	35,834,000		5,671,000
支 出	給与	4,040,000	4,102,000	職員 1 名、パート 2 名	62,000
	旅費	1,970,000	2,020,000	役員旅費：1,470,000 通勤旅費：200,000 その他：350,000	50,000
	事務用品費	360,000	360,000		0
	印刷費	2,040,000	2,032,000	会報：1,672,000 その他：360,000	▲ 8,000
	通信運搬費	1,460,000	1,641,000	電信電話：96,000 会報：845,000 切手葉書ほか：700,000	181,000
	設備工事費	310,000	310,000	維持契約：210,000 その他：100,000	0
	什器備品費	200,000	200,000		0
	事業費	11,300,000	12,600,000	事業計画参照	1,300,000
	会議費	1,500,000	1,600,000	理事会、会長懇話会：600,000 評議員会：500,000 各種委員会：100,000 その他：400,000 (含む副担任会)	100,000
	公租公課	70,000	70,000	法人県市民税：70,000	0
	雑費	2,432,000	3,532,000	税理士報酬：32,000 慶弔渉外費：2,000,000 寄付金：1,000,000 その他：500,000	1,100,000
	預り金支出	108,000	134,000	給与源泉徴収税	26,000
	引当金積立	2,000,000	2,000,000		0
	仮渡金	0	2,000,000	代理店勘定運転資金として同窓会勘定より仮渡	2,000,000
	予備費	2,373,000	3,233,000		860,000
合計	30,163,000	35,834,000		5,671,000	
収支差引	0	0		0	

## 教育職員人事 (講師以上)

(○内の数字は福大医学部卒業回)  
〔平成 18.4.2 ~ 18.10.1〕

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	産科婦人科学	助教授	蜂須賀 徹	18. 6.30	産業医科大学 教授
	皮膚科学	講師	吉田 雄一	18. 9.30	鳥取大 助教授
	筑紫消化器科	講師	宗 祐人 <sup>⑫</sup>	18. 9.30	戸畑共立病院
昇格	病理部	教授	鍋島 一樹	18.10. 1	
	産科婦人科学	助教授	江本 精	18.10. 1	
	脳神経外科学	助教授	継 仁 <sup>⑧</sup>	18.10. 1	
採用	耳鼻咽喉科	講師	末田 尚之 <sup>⑰</sup>	18.10. 1	
	衛生科学	助教授	谷原 真一	18.10. 1	
所属換	消化器外科学	教授	山下 裕一	18.10. 1	手術部より

## 医局長・医長名簿

(○内の数字は卒業回、筑紫病院の※印は内科・消化器科の代表医長)

平成 18 年 10 月現在

	医 局 長	病 棟 医 長	外 来 医 長
[ 福 大 病 院 ]			
血 液 ・ 糖 尿 病 科	高 松 泰	石 川 崇 彦	安 西 慶 三
循 環 器 科	三 浦 伸一郎①	松 本 直 通⑭	安 田 智 生⑰
消 化 器 科	入 江 真⑬	西 村 宏 達⑰	江 口 浩 一
腎 臓 内 科	小 河 原 悟⑦	武 田 誠 司⑪	兼 岡 秀 俊
呼 吸 器 科	白 石 素 公①	荒 牧 竜 太 郎	山 本 文 夫
神 經 内 科 ・ 健 康 管 理 科	齊 藤 信 博⑱	井 上 展 聡②	小 林 智 則 (神 經)
〃			上 原 吉 就⑯ (健 管)
精 神 神 經 科	浦 島 創	正 化 孝	藤 内 栄 太⑳
〃 ( デ ィ ケ ア )			松 嶋 圭
小 児 科	安 元 佐 和⑦	井 上 貴 仁⑮	田 中 美 紀⑰
消 化 器 外 科	前 川 隆 文②	牧 孝 将⑭ ( 4 西 )	緒 方 賢 司⑮
〃		山 内 靖 ( 4 南 )	
呼 吸 器 ・ 乳 腺 内 分 泌 ・ 小 児 外 科	白 石 武 史	平 塚 昌 文⑬	山 本 聡
整 形 外 科	城 島 宏⑭	金 澤 和 貴	有 水 淳⑪
形 成 外 科	白 武 靖 久⑳	牧 野 太 郎⑵	木 下 浩 二
脳 神 經 外 科	大 城 真 也⑪	安 部 洋⑳	岩 朝 光 利⑰
心 臓 血 管 外 科	岩 橋 英 彦⑰	林 田 好 生⑳	竹 内 一 馬⑳
皮 膚 科	山 口 隆 広	高 橋 聡⑳	荒 尾 有 美 子㉔
泌 尿 器 科	田 丸 俊 三⑨	中 島 雄 一⑫	中 村 信 之⑩
産 婦 人 科	吉 里 俊 幸	小 濱 大 嗣⑮ ( 3 東 )	井 上 善 仁
〃		辻 岡 寛⑮ ( 3 北 )	
眼 科	尾 崎 弘 明	右 田 博 敬⑯	木 村 亮 二⑯
耳 鼻 咽 喉 科	今 村 明 秀⑪	末 田 尚 之⑰	山 野 貴 史
放 射 線 科	清 水 健 太 郎⑰	高 良 真 一⑱	木 村 史 郎⑬
麻 酔 科	香 取 清⑬	廣 田 一 紀	平 田 和 彦⑫
歯 科 口 腔 外 科	梅 本 丈 二	池 山 尚 岐	助 臺 美 帆
病 理 部	久 野 敏		
臨 床 検 査 部	明 比 祐 子		
輸 血 部	熊 川 み どり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	益 崎 隆 雄⑪	喜 多 村 泰 輔⑯	
総 合 周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー		雪 竹 浩③	
総 合 診 療 部	白 濱 重 敏⑯		柏 木 謙 一 郎
[ 筑 紫 病 院 ]			
筑 紫 病 院 ( 総 医 局 長 )	張 敬 範⑫		
内 科 第 一	山 之 内 良 雄⑦ ※	土 屋 芳 弘⑬	新 村 英 也⑱
内 科 第 二	飯 野 研 三	豊 島 秀 夫⑧ ※	飯 野 研 三
消 化 器 科 ・ 内 視 鏡 部	平 井 郁 仁⑭	津 田 純 郎⑥	高 木 靖 寛⑮ ※
小 児 科	喜 多 山 昇⑧	深 町 滋⑱	喜 多 山 昇⑧
外 科	関 克 典⑱	永 川 祐 二⑲	成 富 一 哉⑱
整 形 外 科	張 敬 範⑫	藤 澤 基 之	西 尾 淳⑱
脳 神 經 外 科	児 玉 智 信	相 川 博	堤 正 則
泌 尿 器 科	石 井 龍⑤	平 浩 志⑮	石 井 龍⑤
眼 科	武 末 佳 子⑪	佐 川 卓 司	武 末 佳 子⑪
耳 鼻 咽 喉 科	宮 城 司 道⑨	福 崎 勉⑳	菅 原 真 由 美
放 射 線 科	中 島 力 哉⑭		
麻 酔 科	堀 浩 一 郎⑬		
病 理 部	原 岡 誠 司		
救 急 部	三 原 宏 之⑨		

## 訃 報

高 森 雄 二 先生 (4 回生) 平成 18 年 10 月 10 日 ご逝去されました。

〒 864-0053 熊本県荒尾市西原町 1-4-24 高森医院 院長

## 事務局連絡

◆本年度から対外試合で優勝したチームや個人を褒賞する制度が設けられました。今年は早速次の方々が褒賞されました。ほかに該当者があれば事務局宛ご連絡下さい。

西日本医科学学生体育大会 団体優勝 福大医学部柔道愛好会・・・賞金 5 万円

大学スカッシュ九州大会 個人優勝 福大スカッシュ部 山田和之介君 (M4) 賞金 3 万円

全国英語弁論大会 優勝 福大医学部英語研究会 鶴 昌太君 (M4)・・・賞金 3 万円

◆江夏総太郎君 (大学院生、20 回生)・・・4 月、メキシコで開催された世界肺癌学会「第 2 回南米会議」で The Best Poster of Thoracic Surgery Award 受賞 (本号 P14 再掲)

◆石井 敦士君 (M 6)・・・8 月、オーストラリアで開催された第 11 回国際人類遺伝学会で Best Poster prize 受賞

◆E メールアドレスを教えてください。同窓生が増え活動が盛んになると何かと皆さんへのご連絡の機会が多くなります。そんな場合、メールを利用出来れば随分と助かります。

将来は当然大きな連絡網の構想も必要になりましょう。ご協力をお願いします。

◆高野 慎 (こうやまき) 本年 3 月は医学部にとって悪夢の月でした。しかし一方 9 月には秋篠宮家に親王誕生という明るいニュースもありました。悠仁親王のお標しが決まったとき丁度高野山に行く用事があり、早速高野慎を求めてきました。高野慎の頼もしい成長力にあやかり、悪夢を払拭して我が医学部の成長を期待する気持ちがあったのかも知れません。取り敢えず医学部本館北玄関の入口に仮植えしています。(裏表紙末尾の写真参照)

文責 事務局長 池田静夫

## 編 集 後 記

今年度より烏帽子会会報の編集責任者になった。長年、会報の編纂に尽力いただいた田中伸之介君に心より感謝申し上げる。彼が築き上げてきた様式を継承しつつ、今後は事務局の池田氏および筑紫病院の武末君をはじめとした編集委員とともに、学生や研修医にも興味がわくような企画を、新たに加えてゆきたいと考えている。福大医学部にとって前向きで建設的な意見があれば、遠慮なく原稿を是非出していただきたい。会員に限らず、福大医学部に縁のある方からのご意見も大いに歓迎する。

編集委員長 大慈弥 裕 之

— 烏帽子会グッズ案内 —



診察衣  
価格：下記の通り



ケーシー型  
価格：下記の通り



Tシャツ  
価格：1,500円(送料込み)



ネクタイ  
価格：1万円(送料込み)



スカーフ  
価格：1万円(送料込み)

白衣サイズ (cm) と価格

区分	サイズ	男性用					女性用					価格 (学生用、OB用共通)
		着丈	バスト	肩幅	袖丈	半袖	着丈	バスト	肩幅	袖丈	半袖	
診察衣型	S	97	106	44	56	24	88	100	38	51	20	長袖4,300円 半袖4,200円 (ネーム入れ100円加算) 宅送希望の方は別途宅送料
	M	100	110	45	57	25	91	104	39	52	21	
	L	105	114	46	58	26	96	108	40	53	22	
	LL	105	118	47	59	27	101	112	42	54	23	
KC型	3L	105	124	49	59	27	101	118	44	54	23	半袖のみ 4,300円 (ネーム入れ100円加算) 宅送希望の方は別途宅送料
	S	72	100	42		24	67	94	38		20	
	M	74	104	44		25	69	98	39		21	
	L	76	108	46		26	71	102	40		22	
LL		78	114	48		27	74	106	42		23	宅送希望の方は別途宅送料
	3L	78	120	50		27	74	112	44		23	

\* 宅送料は九州管内の場合10着まで500円。管外は少々高くなります。

**購入申込**

ご購入希望の方は申込書を事務局に申し込むか、又はホームページから申込用紙をダウンロードしてファックスでお申し込み下さい。お支払いは商品に同封の振込用紙をご利用下さい。

〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1福岡大学医学部同窓会  
TEL:092-865-6353 FAX:092-865-9484 E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp  
ホームページアドレス:http://www.med.fukuoka-u.ac.jp/eboshi/



高野 植

烏帽子会会報第41号

発行日 平成18年12月1日

発行人 高木 忠博

編集人 大慈弥 裕之

発行所

〒814-0180

福岡市城南区七隈7-45-1

福岡大学医学部同窓会

電話 092-865-6353(直通)

092-801-1011(代表)

内線3032

FAX 092-865-9484

E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所

ロータリー印刷株

福岡市中央区長浜2-1-30

電話 092-711-7741

FAX 092-865-9484